

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

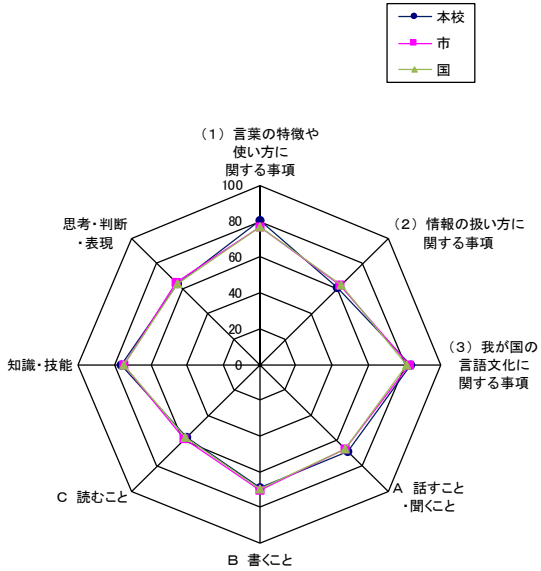
- 1 目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査期日
令和7年4月17日(木)
- 3 調査対象
小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)
中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)
- 4 本校の参加状況
① 国語 130人
② 算数 130人
③ 理科 130人
- 5 留意事項
 - (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
 - (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
 - (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.3	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	60.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	69.0	67.0	66.3
	B 書くこと	68.5	70.0	69.5
	C 読むこと	57.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	76.2	74.5	74.5
	思考・判断・表現	64.2	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

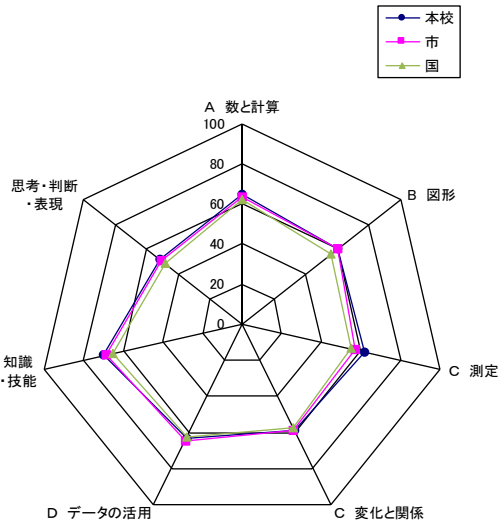
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかについての問題の正答率は市の平均を上回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・意味調べをする活動を取り入れるなどして、漢字の意味をきちんと理解できるようにする。 ・漢字を覚えるだけでなく、文章を書く際には、既習の漢字を使うように繰り返し指導する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかについての問題の正答率は、全国や県の平均を下回った。	・類題に取り組むことによって、資料の活用方法や表示の仕方、どのように整理されているかなど分析する力が身に付くようにする。 ・グループで話し合ったり、記録をまとめたり見比べたりするなどして、よりよい方法について学べるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国や市の平均よりやや高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるという問題の正答率は、全国や県の平均を上回った。	・読書活動を充実させたり、読み聞かせを行ったりしていくことで、さまざまな言語に触れる機会を作るようにする。 ・社会の歴史や文化に触れることで、言語について学べる場を設定する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかについての問題の正答率は、全国や県の平均を上回った。 ●話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、正答率は県の平均を上回ったが、全国の平均よりやや下回った。	・朝の会、帰りの会、学級活動などで、全体の前やグループ、ペアで話す時間を設けることにより、話すことや聞くことに慣れ親しめるようにする。 ・自分たちでインタビューをしたり、質問の意図を考えたりするなどして、話す力を伸ばしていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国や市の平均より低い。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題については、全国や県の平均を上回った。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題については、全国や県の平均を下回った。	・授業の振り返りの時間に、学習した分かったことや学んだことを新聞やポスター、スライドショーにまとめるなどして、書く活動を多く取り入れていく。 ・分かったことや感想を書いたものを見せ合う場を設定することで、次の書く活動の際に参考にできるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国や市の平均よりやや低い。 ○文章全体の構成を捉え、叙述を基に要旨を把握することができるかどうかをみる問題の正答率は、全国や県の平均を上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つめることができるかどうかについての問題の正答率は、全国や県の平均を下回った。	・資料を使って図表を読み解けるように、さまざまな文章に慣れるようにする。 ・資料や文章の中から、どの叙述に着目したのかを明確にし、考えをまとめることができるような指導を行っていく。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.6	63.6	62.3
	B 図形	60.3	60.4	56.2
	C 測定	61.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.0	58.6	57.5
	D データの活用	63.2	64.4	62.6
観点	知識・技能	69.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	51.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

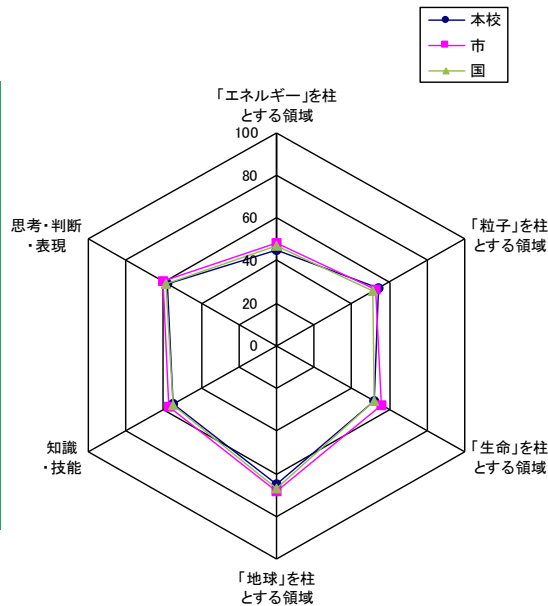
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表して計算する問題では、本校の正答率が、全国や県の正答率を5ポイント以上上回っている。 ●棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、本校の正答率が県の正答率を3.9ポイント、全国の正答率を6.5ポイント下回っている。	・引き続き、計算の基礎となる事項については、問題集やAIDリルを活用し、繰り返し練習して定着を図る。 ・グラフの読み取りでは、複数項目を比較し、関係性を把握するような問題演習を取り入れ、問題に慣れることができるようにする。
B 図形	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○台形の意味や性質について問われる問題では、本校の正答率が、全国や県の正答率を6ポイント以上上回っている。また、全ての問題において、全国や県の正答率を上回っている。	・図形学習をより直感的で具体的なものにするために、実物やICT機器を積極的に活用し、定着を図る。 ・図形の性質をもとに、作図の仕方を考えたり、説明したりできるように、個に応じた指導の徹底引き続き図る。
C 測定	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○「はかりが示された場面では、はかりの目盛りを読む」問題では、全国平均正答率よりも11.3ポイント、県の平均正答率よりも10.9ポイント高くなっている。 ●「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題解決のために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうか」をみる問題の正答率は、全国や県の平均正答率よりもやや高いが、50.8ポイントと低くなっており理解が不十分であることが分かる。	・はかりの目盛りを読む問題については、実物を使って実感をもって取り組めるようにするとともに、AIDリル等も活用して引き続き習熟を図る。 ・授業で類似する問題を扱う際には、伴っている二つの数量の中で、問題解決のために必要な数字に線を引くよう指示したり、求め方について少人数で意見交換をしたりするなどして、主体的に問題に取り組むことができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうか」をみる問題では、県や全国の平均よりもやや低かったものの、平均正答率は約8割となっている。 ●増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表す問題では、全国や県の平均よりも高いものの、正答率が47.6%と他の設問よりも正答率が低かった。	・基準量、比較量、割合等の関係を十分に把握できるよう、AIDリルやプリント学習等を活用し、理解を深められるよう努める。 ・伴って変わる2つの数量の関係に着目したり、必要な数量を見出したりする学習を意図的に取り入れ、問題に慣れることができるようにする。
D データの活用	平均正答率は、全国や市の平均と同等である。 ○二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、全国や県の平均よりも高かった。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題では、全国や県の平均を下回った。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、全国や県の平均を5ポイント程度上回っているものの正答率38.1%と他の設問よりも正答率が低かった。	・分類されたデータをグラフや2次元の表に表す活動を多く取り入れ、分類、整理する能力の育成を図る。 ・問題文に書かれている条件を正しく理解し、正確に解決できるよう、読解力の向上に努める。

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.2	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	54.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	52.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	64.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	55.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	58.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国や市よりもやや低い。 ○人形を用いてかねが鳴る実験で正しい電流の回路のつくり方を選択する問題について、平均正答率が全国や県の平均正答率よりも高い。 ●電磁石の強さを最も強くできるつなぎ方を選択する問題では、全国や県の平均正答率よりも低く、正答率も4割程度と低い。	・実験やICTの活用した活動を通して、実際に見たり、体験したりする活動をできるだけ多く行うようにする。 ・実験の結果から分かったことを、ノートに書いたり、図に表現したりするなど、自分の考えをまとめる機会を作る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国や市よりも高い。 ○水は温まると体積が増えることを根拠に海面水位が上昇した理由を予想する問題については、平均正答率が全国や県の平均正答率よりも高い。 ●アルミニウム、鉄、銅の性質を選択する問題については、全国や県の平均正答率よりも高いが、1割程度と低い。	・実験やICTの活用した活動を通して、実際に見たり、体験したりする活動をできるだけ多く行うようにする。 ・話し合いなどの活動を通して、結果を基に自分の考えを作り出したり、様々な考えを共有する活動を多く取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市よりは低く、全国とほぼ同等である。 ○ヘチマのおしべとめしべがどのようなつくりになっているのかを選び、受粉について説明をする問題については、平均正答率が全国や県の平均正答率よりも高い。 ●レタスの種子の発芽の結果から、発芽するために必要な条件について記述する問題については、全国や県の平均正答率も下回り、無回答率も高い。	・自然の事物・現象について問題を見つけ、その問題を解決するための方法について考える活動をできるだけ多く取り入れるようにする。 ・観察したことや実験結果から分かったことを基に、ノートに書いたり、図に示したりするなど、考えを表現する機会を作る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国や市よりも低い。 ○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するようにについて適切に説明していることを選ぶ問題では、平均正答率が全国や県の平均正答率よりもやや高い。 ●赤土の粒の大きさによって水のしみこみ方が異なることを基に、その結果が考えられる理由を記述する問題では、全国や県の平均正答率も下回り、無回答率も高い。	・「課題に対する予想を立てる」「目的意識や見通しをもって実験、観察をする」「結果を記録し話し合う」「考察し、まとめる」の流れを明確にした授業を展開し、自然の事物・現象を科学的に探究する力を育てる。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問への肯定的回答は、100%となっており、一人一人が他者を大切にしようという気持ちをもって生活していることが分かる。今後もいじめゼロ集会や、いじめゼロ月間など児童が主体的に活動を進められるように支援したり、教育相談を充実させることで意識を高めていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問への肯定的回答は84.1%となっており、全国の平均をやや上回っている。本校では、キャリア教育の一環として「ドリームカード」を作成して掲示する活動を行っている。今後もその活動を通して、自分の将来について考える時間をとったり、友達の将来の夢などを知り視野を広げていったりできるようにしたい。

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成できると思いますか」という質問への肯定的回答は85.6%と、全国の肯定的回答率よりも、8.9ポイント上回った。様々な教科において、タブレットを活用した発表資料の作成の実践が身に付いてきているものと思われる。今後も、自分の考えを伝える手段の一つとして活用することができるように指導を継続したい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問への肯定的回答は、66.6%となっており、全国の平均や県の平均を下回っている。各教科において、自分の考えをもつだけでなく、友達との意見交換の時間を確保したり、様々な意見を意図的に取り上げたりして、意見の違いを知る楽しさを味わせたい。

●「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の肯定的回答率は、75%となっており、全国や県の平均に比べるとやや低くなっている。学び方については、質問をして解決する、友達と相談する、文献を調べる、インターネットを活用するなど、様々な解決方法があることを伝えたり、その解決方法を実践する時間を確保したりして、自分の学び方を広げることができるようにしたい。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問への肯定的回答は、69.7%となっており、全国や県の平均よりも低くなっている。授業の終末において学習の振り返りを行っているが、振り返りのポイントなどを提示し、できたことだけではなく、これからもっと知りたいことや、今後挑戦したいこと等にも考えを広げて振り返りができるように指導をしていきたい。

宇都宮市立石井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多様な考えを認め合いながら、自己の考えを深める活動の工夫	・ペアや少人数での考えを伝え合う活動を各教科で取り入れている。 ・各教科の授業の終末において、自分が達成できたことや、今後の課題について振り返る時間を設定している。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問への肯定的回答は79.5%であり、全国や県の平均よりも低くなっている。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問への肯定的回答は、69.7%となっており、全国や県の平均よりも低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ペア学習や少人数での考えを伝え合う活動を取り入れているが、自分の考えと友達の考えについて、考えを深めるための取組が不十分と考えられる。	・様々な意見を知ること、自分の考えを深められることを実感できるように、互いの考えを共有する時間を各教科で意図的に取り入れるとともに、活動で大切にしたいポイントを提示する。	・ペア学習や少人数での考えを伝え合う活動を取り入れるだけでなく、さらに活動で大切にしたいことを示すことで、それぞれの考えの良さについて考え、多様な考えを取り入れることができるようにしたりしたい。 ・各教科において、授業の振り返りの時間を十分確保するとともに、振り返りのポイントを提示し、振り返りの視点を広げることができるようにする。